

会議録様式

審 議 会 名	令和4年度 第1回杉戸町新庁舎整備審議会
開 催 日 時	令和4年11月18日(金) 午後4時00分から午後6時00分まで
開 催 場 所	杉戸町役場 第一庁舎3階会議室
会 議 の 議 題	(1)庁舎の現状と課題について (2)基本理念及び基本方針(案)について (3)町民、職員アンケート調査の実施内容について
公開・非公開の別	☒ 公開 ☐ 非公開 (傍聴者数 1人)
出席委員氏名	石原 和夫、岩本 明美、佐々木 誠、藏田 幸三、 藤岡 麻紀、池澤 龍三、井上 裕文、木村 三樹男、 中野 恒明、青木 一子

■審議の概要

1.開会

2.町長あいさつ

3.委嘱状交付

4.委員自己紹介

5.会長及び副会長の選出

全員賛成により、佐々木 誠氏を会長、木村 三樹男氏を副会長として選出。

6.諮問

町長から佐々木会長に諮問書交付

7.議事

(1)庁舎の現状と課題について

(2)基本理念及び基本方針(案)について

(3)町民、職員アンケート調査の実施内容について

8.意見交換・質疑応答(概要)

石原委員：

現庁舎敷地の形がよくないが、敷地面積は。敷地を用地買収、あるいは区画整理などでもう少し敷地を整形することが可能か。

旧杉小跡地の複合施設の整備が始まるとのことだが、新庁舎の整備事業と一体として検討してこなかったのか。

事務局：

敷地面積は、倉庫など含め概ね 11681.93 平方メートル(国道側の駐車場面積を除く)となる。

用地買収については現在の敷地の形が悪いという状況があるが、相当のコストがかかることが見込まれ、はたして地元住民の理解が得られるのかというところがある。そのため、もしここで建て替えをするなら現敷地を中心に考えていくことがベースになると思う。

旧杉小跡地については、敷地が 7,000 平方メートル程度となる。庁舎移転の検討はしたが、公園をなしにする、駐車場を 3 階建てにするなどの規模感にしないと面積として難しい。またハザードマップで確認すると現敷地より浸水しやすい。それらを考え合わせたうえ今の整備となった。

石原委員：

用地買収について、区画的に用地交換等を提案するなど、検討したのか。候補地の位置は現敷地で決定しているのか。

事務局：

区画整理については具体的な検討・議論はしていない。今後、整形の必要があれば、区画整理事業の必要があるのかと思う。候補地については、審議事項となっており確定していない。

佐々木会長(以下、会長という。)：

スケジュール的な縛りはどの程度あるのか。

事務局：

基本構想は令和 4・5 年度に検討するとしているが、今の段階だと基本構想以降の具体的なスケジュールは申し上げられない。

中野委員：

もし現敷地で建て替えるとなった時、建て替えの間の役場機能はどう考えているのか。

事務局：

建て替えについては、仮庁舎を建てつつ整備するのか、全部一度壊して整備等様々な手法がある。どの整備プランが低コストかつ住民のためになるのか検討していきたい。

木村副会長：

例えば、「安心・安全の庁舎」という基本理念(案)だが、災害時に防災拠点ということなのか、避難場所という機能も含むのか曖昧。

会長：

基本理念が案とかかかれているが、既にどこかで検討し、挙げた事項なのか。

青木委員：

理念に「安心・安全の庁舎」、「防災機能」と記載されているのを見て、障がい者の防災の拠点としてほしいという希望があった。懸念するのは、東日本大震災の時にこの辺りの地盤の脆弱さが気になった。そのため、この地盤でよいのか。せっかく作るのであれば、もっと別の場所を検討してもよいのでは。

副町長：

基本理念の考え方ということだが、将来的にどういう庁舎にしていきたいかを考えたときに、3つの理念(「安心・安全な庁舎」、「親しみやすく利用しやすい庁舎」、「環境にやさしい庁舎」)に絞って挙げた。「安心・安全な庁舎」というのは、災害時の避難所ではなく、いわゆる行政サービスを災害時に停止させないように、司令塔となる頑丈な庁舎を、という考え方となる。

また、横に長く段差があるような庁舎で、障がい者を含め利用者からすると非常に使い勝手悪い面があるためのユニバーサルデザインや、その他に環境負荷を少なくするという考え方となる。

これから、委員の皆様からいただいた意見で取り入れたほうがよいものがあれば、庁内の検討会議などでも検討していく。

藤岡委員：

役場は誰でも使う場所であり、住民の交通手段も様々と考える。道路整備の観点

で、拠点だけでなく、町の周辺環境についても町の方角性があれば教えてもらいたい。

事務局：

杉戸町もウォーカブル推進都市に参加しており、マチナカリビングなども開催するところである。町の中には南側散策道という美観に配慮した散策道も駅前通りまで伸びているので、そういったものも今後活用していければと思う。役場の近くには公共交通である路線バスも通っているので活用していければ。

池澤委員：

基本構想という点を踏まえていうと、いま問われているのは、住民がこれまでのように役場にきて相談・手続きをするのではなく、来庁せずとも手続きができていくというのが望ましい。行政サービスがどういう形になっていくのかを見極めて、それに適正な形の器がついてくると考えていかなければいけないと思う。

長い目で見たとき、これからの行政機能に何が必要かしっかり見極め、敷地内にどのような機能を集約させるかを考え、建物の大きさを決めていくことが必要と思う。アンケートのなかで、DX だけでなく、公務員の働き方改革を考えていく視点が抜けているのでは。

藏田委員：

基本構想を含めて、アンケートにも財源や期間など、前提条件をしっかりと示すことが重要と思う。たとえばアンケートをするにしても、どれくらい予算をかけてやるのかといったこと。例えば、住民が自分の懐から 10 万円出してもやってほしいのか、しっかりと示した上で議論することが必要。そのため、アンケートの付属資料としてつけてはどうか。

今回の基本構想については、この議論のテーマである課題を解析し、明確に示したほうがよいのでは。

会長：

ここで議論すべき前提条件についての意見が多かったため、その点を事務局で示されたほうがよいと思う。

井上委員：

DX の視点でいうと、申請手続きについて、記載するためではない窓口等のカウンターは必要であろうと考える。

2040 年問題で人が少なくなってくる中、介護、子育て支援など、限られたリソー

スの中でどういう風にまわしていくのか、今後の職員の働き方も視点の中にあってもいいのでは。

岩本委員：

杉戸町役場の新庁舎整備ということだが、他市町村の新庁舎整備の視察の一覧など、まとめたものなどあるか。今後、予定しているということであれば参考になると思うが。

副町長：

庁内検討委員会も立ち上がったばかりなので、視察は行っていない。令和 3 年度に担当のほうで他自治体へ訪問したと聞いている。また、桂設計さんも様々な事例をお持ちだと思うが、事例の提供は可能か。

(株)桂設計：

相手方自治体の了承を得られれば提供は可能。

副町長：

役立つような事例があれば、相談してやっていきたいと思うので、ご提供いただければと思う。

会長：

アンケートについては、今の庁舎の延長上の質問しかないと思う。いろいろな意見をいただく中で、もっと先を見越した、働き方、オンラインなど、庁舎に行かなくてもいいという時代がもう目の前にきている。また、構想の中で杉戸町らしさ、というのも個人的には必要と思う。

9.その他

10.閉会